

検討会への委員の追加

航空局 航空ネットワーク部

空港技術課

令和 7 年12月24日

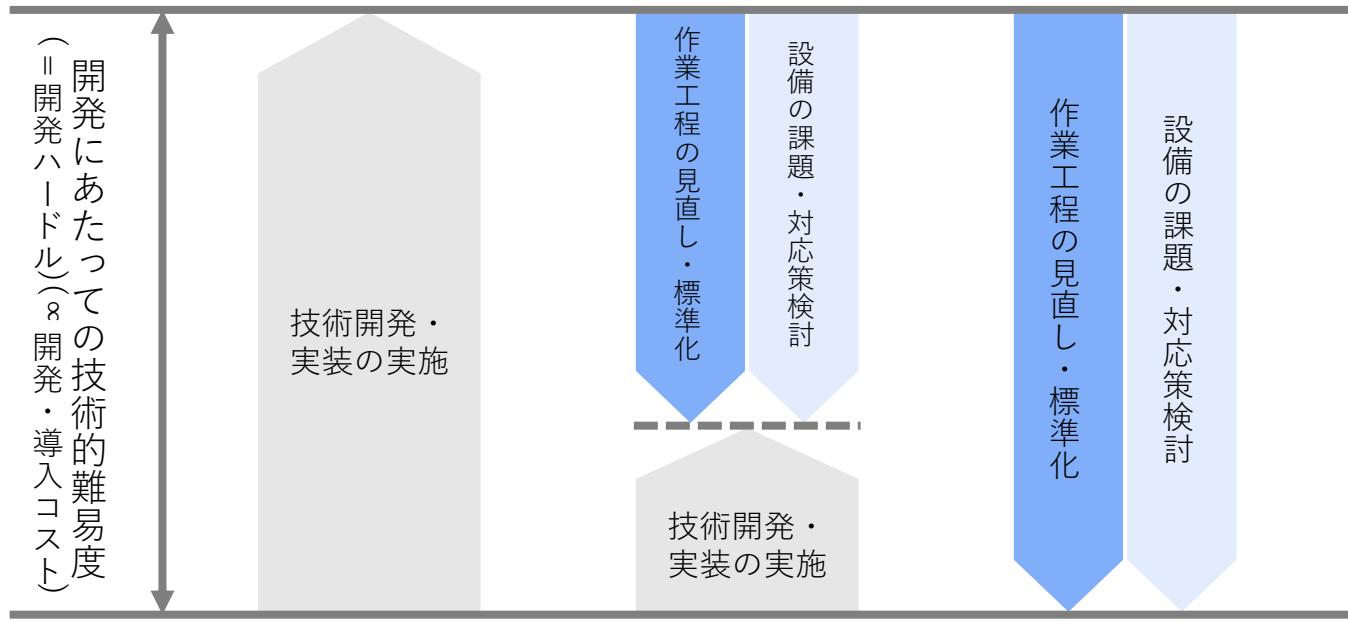


設備の課題・対応策検討の必要性

- グラハン作業の生産性向上に向けた技術実装・開発を進める上で、現状のヒトによる作業をそのままロボット化するような技術開発は、非常にハードルが高い。
- 一方、人が作業する前提での複雑な工程の見直しや標準化、施設制約の課題の見直しなど、"地ならし"を行うことによって、このハードルを下げる可能性がある他、一品一様の開発を避けることにもつながる。その結果として、開発コスト・導入コストの低下や技術開発・実装に向けた動きの加速化も期待できる。

設備の課題・対応策検討の必要性

目標：技術の開発・実装による生産性の向上



現状

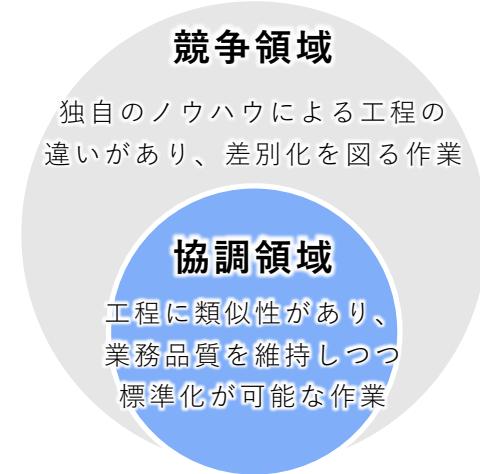
- 開発難易度が高い
- 採算性が低い
(一品一様等)
- 導入コストも上がる

- 開発ハードルを下げ
技術開発促進が可能

- 既存技術の実装で対応可能

標準化の検討対象

標準化の対象は協調領域のみ



**作業工程の見直し・標準化や
設備の課題・対応策の検討が必要**

技術検討会への委員追加について

- 今回の技術検討会において、手荷物ソーティング設備・施設の検討方針を議題に取り上げたが、今後も適宜議題として取り上げることを予定している。
- 現在、(一社)全国空港事業者協会が委員として参画しているが、空港ビル会社にも参画頂き、設備・施設の検討方針やグラハンの生産性向上等に関するご意見を伺いたく、空港ビル会社を委員として追加したい。
- 今回、最初の実装候補として想定している羽田空港の事業者(JAT・TIAT)を委員として追加したい。

※その他の空港ビル会社においても、今後の各回の議題に応じて、適宜委員や関係者(設置規則第2条)での追加等を検討する。

技術検討会参加者

学識経験者委員

- ◎加藤 一誠 慶應義塾大学 商学部 教授
- 花岡 伸也 東京科学大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 教授
- 福田 大輔 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
- 西藤 真一 桃山学院大学 経営学部 経営学科 教授

業界関係者委員

- 空港グランドハンドリング協会 執行理事
- 全日本空輸株式会社 オペレーションサポートセンター 副センター長
- 日本航空株式会社 グランドハンドリング企画部長
- 全国空港事業者協会 常務理事
- 日本空港ビルディング株式会社 旅客ターミナル運営本部 旅客管理グループ 施設運営部長
- 東京国際空港ターミナル株式会社 施設部長

委員

オブザーバー

- 経済産業省 製造産業局 産業機械課 ロボット政策室

学識経験者関係者

- 川村 貞夫 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 機構長代理 特別招聘研究教授